

かずさの博物誌

ムナグロ

～長距離を渡る金色のチドリ～

文・写真／成田篤彦

2013.5.20



©成田篤彦

「盤洲の水田に約300羽のムナグロが来ています。見に行ったら？」とありがたいメールをいただいた。早速、出かけた。海岸へ向かう途中、広い範囲の田んぼが赤土で埋め立てであった。ブルドーザーのキヤタピラの跡に黒や薄茶色の塊があちこちに見えた。双眼鏡で見るとムクドリ大の小鳥で、顔から胸、下腹が真っ黒。背に黄色と黒の斑紋があった。ムナグロだ。背の羽が金色がかり、美しい。ちなみに、英語ではGolden Plover（金色のチドリ）という。なかには、胸や下腹がまだ白い幼鳥も混



©成田篤彦

▲休息するムナグロの群れ=シギ目チドリ科 =2013年4月26日 木更津市

じっていた。約150羽いた。ムナグロの話聞いてから数日たっているの、半数は北国に渡ったのかも。少し残念だと思ってしまう。それにしても、ムナグロが、造成されたばかりの埋め立て地にいるとは？と驚きつつ、ぬかるみで、長靴が抜けそうになりながら、脅かさな



©成田篤彦

▲水浴びするムナグロ =2013年4月26日 木更津市

いように背を低くして、近づいた。ムナグロは目をつぶっているもの、片足で立っているもの、キヤタピラ跡の凹みに座っているもの、水浴びをしているものがいた。えさを捕っている様子はない。ここで、彼らは休息しているのだ。その日は数十羽の群れが上空から何度か飛び降りてきて立ち並んで休んでいた。

の初夏に、埋め立てたばかりのデコボコした地面に大群の水鳥がいる光景は味気がない。だが、ムナグロから見れば広大な埋め立て地には人々や野犬やイタチなどの天敵も近づかない。見通しも良い。羽の汚れを落とすための水たまりもある。それに思ったより彼らの姿が赤土にまぎれて目立たない。ムナグロにとっては、渡りの途中の安全なオアシスになっている。

しばらく見ていると埋め立て地から飛び立ち、近くの草丈の低い草地に約100羽が降り立った。帰る途中に、



©成田篤彦

▲水田に舞い降りたムナグロ =2013年4月26日 木更津市

memo

ムナグロ（胸黒）

チドリ目チドリ科

千葉県指定一般保護生物。全長24cm。旅鳥。湿地、水田、干潟などで見られる。干潟では少ない。ゆつくりと歩きながら小動物を食べる。春と秋の渡りの期間、特に春の渡りの時期に数が多い。関東地方では大きな群れが見られる。ユーラシアと北アメリカのツンドラ地帯で繁殖し、ヨーロッパ、アフリカ、インド、東南アジアなどの海岸で越冬。長距離を渡る水鳥として有名。東京湾岸や南房総で越冬していたが、近年、数が減少した。

参考文献

日高敏隆監修 1996 日本動物大百科 3 巻鳥類 1・平凡社